

長者見之愛重、即問卿氏族何、今爲係誰と見えたり、今も媵妾をてかけめかけといへり、

〔物類稱呼人倫〕妾おもひもの京師にてて。かけとよぶ、東國にてめかけと云、西國及尾州にてご。

ひと云、御妃奥の南部にておなめといふ、

〔松屋筆記 九十六〕てかけめかけ

妾をてかけといふ事、三議一統下卷^{廿二}宮仕門に、賞翫の白拍子妾傾城などに、料足出す事云々

と見ゆめかけと云詞も、九十三卷の六則に抄出せり、

〔續修東大寺正倉院文書 四〕御野國味蜂間郡春部里太寶貳年戶籍

下政戸六人部久知良戸口十一^略註

下々戸主久知良^{正年五十三} 嫡子石前^{小年十一} 次小石前^{小年八} 妾子麻呂^{小年十五} 〇^{中略}

中政戸春部星麻呂戸口廿二^略註

下々戸主星麻呂^{正年五十七} 〇^{中略} 妾春部姉賣^{正年五十} 〇^{中略}

〔東大寺正倉院文書 二十二〕御野國味蜂間郡春部里太寶貳年戶籍

上政戸六人部加利口卅^略註

下々戸主加利^{書年八十} 〇^{中略} 妾建部刀自賣^{年六十三} 〇^{中略}

上政戸國造族皆麻呂戸口卅六^略註

下中戸主阿佐麻呂^{正年五十七} 〇^{中略} 妾國造族紫賣^{正年卅五}

〔榮花物語 花山 二〕このとの^{兼家藤原}は、うへもおはせねば、この女御^{冷泉女御}藤原超子^御どの、御かたにさぶ

らひつる大輔といふ人をつかひつけさせ給て、いみじうおぼしときめかしつかはせ給ければ、

權の北方にてめでたし、

〔榮花物語 三々〕の悦^{兼家藤原}大殿とし比やもめにておはしませば、おほんめしうどの内侍のすけ